

# ArcGIS Desktop (ArcMap) から最新の地理空間 プラットフォームへの移行

移行を計画する際のステップバイステップガイド



esri®

THE  
SCIENCE  
OF  
WHERE®

Copyright © 2025 Esri

All rights reserved.

Printed in the United States of America

本書に記載されている情報は、Esri が独占的権利を有するものであり、本書は、米国の著作権法およびその他の国際著作権条約/規定によって保護されています。Esri 社から書面で明示的に許可されている場合を除き、本書のいかなる部分も、電子的、機械的 (複写、記録を含む) などのいかなる手段によっても、またはいかなる情報ストレージ、検索システムによっても、複製または伝送することはできません。本件に関するお問い合わせはすべて、担当窓口 (Contracts and Legal Services Manager, Esri, 380 New York Street, Redlands, CA 92373-8100, USA) で受け付けております。

本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。

Esri、Esri グループおよびフレーム ロゴ、The Science of Where、ArcGIS、ArcMap、ArcCatalog、Network Analyst、Business Analyst、[esri.com](https://www.esri.com)、および [@esri.com](mailto:esri.com) は、米国、欧州共同体、またはその他の特定の管轄区域における Esri の商標、サービス マーク、または登録商標です。本書で言及されるその他の企業および製品またはサービスは、それらの各所有者が所有する商標、サービス マーク、または登録商標である場合があります。

# 目次

はじめに.....	4
移行することの価値.....	5
移行の計画.....	8
移行の開始.....	13
補足的なリソース.....	18

# はじめに

長年にわたって、ArcGIS® Desktop (ArcMap™ と ArcCatalog™ を含む) は地理情報システム (GIS) ワークフローの中心に位置付けられ、ユーザーの組織で複雑な問題の解決と重要な運用の管理を可能にしてきました。しかし、ArcGIS Desktop が開発終了バージョン サポートになり (2024 年 3 月時点)、[2026 年 3 月にリタイアが控えている](#)ため、組織の長期的なニーズに対応するよう設計された動的でスケーラブルなプラットフォームに移行すべき時期が来ています。

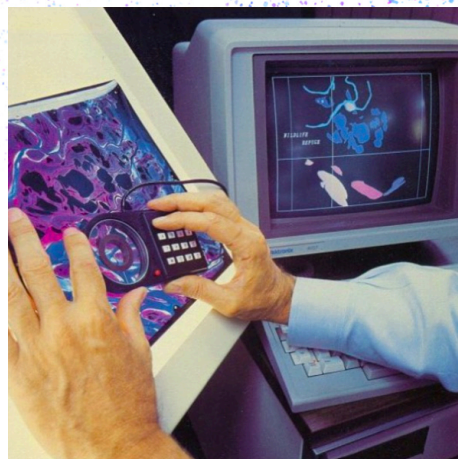
ArcGIS Desktop (具体的には、ArcMap) から Esri の最新の地理空間プラットフォームへの移行は単なるソフトウェアの変更に留まりません。これは、組織の GIS プログラムを将来にも対応できるように拡張する機会なのです。現在、ArcGIS へのライセンス付与とアクセスを行う主要な方法はユーザー タイプによるものです。このライセンス モデルは、ArcGIS の機能、アプリ、サービスへのロールベースのアクセスを幅広く提供します。移行を行うことで、ユーザーは以下のことが可能です：

- **ライセンスを最適化** - チームのロールを適正なツールに対応付けることで、複雑さを軽減できます。
- **ワークフローを最新化** - プロセスを効率化し、より効果的にコラボレーションできます。
- **高度な機能を活用** - ArcGIS Pro の最先端のツールの機能を活用できます。
- **すべてのユーザーの能力を強化** - 組織のすべてのユーザーに Web およびモバイル アクセスを提供できます。
- **GIS プログラムの将来を保証** - 優れた安全性と拡張性を維持し、今後の状況に対応できるよう準備しておくことができます。

Esri は、ユーザーが ArcMap で行った投資を認識しており、ユーザーの GIS 体験におけるこの次のステップを通してユーザーを支援できるよう取り組んでいます。このガイドは、シームレスな移行を計画、準備、実行するためのものです。早速、今日から、チームの作業方法を変革しましょう。

## GIS イノベーションの遺産

多くのユーザーにとって、ArcMap はすべての出発点となる場所でした。1990 年代後半に導入されたこの画期的なソフトウェアは、デジタル時代の GIS を生み出し、より直感的でアクセスしやすい空間解析を実現しました。ArcInfo™ のコマンドラインの時代は終わりを迎え、ユーザーは ArcMap を使用して、ポイント/クリック/マッピングして、地理情報が作成、編集、共有される方法を変革することができました。



マップのデジタイズやモデルの構築から、空間解析の実行に至るまで、ArcMap は GIS に対する共通理解を形成してきました。しかし、テクノロジーは常に進化しているため、ユーザーには、それに対応できるツールが必要です。このような理由で ArcGIS Pro が 2015 年に導入されました。その目的は、最新の GIS として高度な機能を提供し、パフォーマンスを向上させて、ArcGIS Online および ArcGIS Enterprise とのシームレスな統合を可能にすることです。

現在、GIS がデスクトップを越えて Web およびモバイル環境に広がっている中で、ユーザー タイプを通じた ArcGIS Pro への移行は、今日の課題に対応するために必要な機能、柔軟性、セキュリティーをすべてのユーザーに届けます。変更を負担に感じる方もいるかもしれませんが、一人でやる必要はありません。Esri は、移行ができるだけスムーズに進むようにすべてのステップで、専門家によるガイダンス、トレーニング、リソースによってユーザーをサポートいたします。

## 移行することの価値

移行は、組織がその目標を達成するために GIS をどのように利用できるかを再考する戦略的な機会です。つまり、お使いの GIS プログラムを構築または改善するチャンスなのです。従来のデスクトップ ワークフローを越えて、チーム間でのコラボレーション、解析、意思決定をサポートする完全に連携したシステムに移行しましょう。移行によって以下のことが可能です:

## 1. 最新のデスクトップ GIS の無限の可能性を解放

Esri の地理空間プラットフォームの中心にある ArcGIS Pro は、高度なデータの視覚化、解析、マッピングのための代表的なプレミアム デスクトップ GIS ソリューションです。ArcGIS Pro は以下の機能をチームに提供します:

- **1 か所で提供される包括的ツール** - 統合された 1 つのアプリケーションでマップを作成し、空間解析を実行して、空間データを管理できます。
- **高度な機能** - AI を活用したワークフロー、3D ビジュアライゼーション、リアルタイム データ統合を利用して、複雑なプロジェクトに取り組むことができます。
- **自動化とカスタマイズ** - Python スクリプトと構成可能なタスクを使用してプロセスを効率化し、生産性を最大限に高めることができます。
- **シームレスに共有できる機能** - マップとデータを直接 ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise に公開して、チーム間およびデバイス間のコラボレーションを実現できます。

[移行のメリット](#)について詳細をご確認ください。

## 2. ユーザー タイプによって組織全体を活性化

ArcGIS は、価値ある情報と知見を組織全体のユーザーに提供できますが、組織の誰もが、ArcGIS Pro の高度な機能へのアクセスを必要としているわけではありません。そこで、**ユーザー タイプ**が必要となります。このロールベースのライセンス モデルでは、ArcGIS のアプリと機能を個人のロールと連携させることで、各自の作業に必要なツールをチーム メンバーに提供しやすくします。ユーザー タイプには次のようなものがあります:

- **Creator** - マップの設計、アプリの構築、データの管理を行うユーザー向け
- **Professional と Professional Plus** - 高度なマッピング、解析、カートグラフィー向け
- **Contributor** - Web 上でデータを編集および更新する必要があるユーザー向け
- **Viewer** - GIS の知見へのアクセスが必要な関係者および意思決定者向け
- **Mobile Worker** - モバイル デバイスでデータを収集するフィールド作業員向け

ArcGIS ライセンス構成を最適化することで、コストを削減し、組織全体のより多くのスタッフに地理空間機能を提供することができます。[ユーザー タイプ](#)について詳細をご確認ください。

### 3. ワークフローを最新化および効率化する

Esri の地理空間プラットフォームに移行すると、チームの作業方法を再考して改善できるようになります。つまり、ArcGIS Desktop ユーザーは、ArcGIS Pro のようなデスクトップ アプリケーションを超えて、ArcGIS の他の部分を利用し始めることができます。場合によって、ユーザーはデスクトップ GIS ソフトウェアから、より焦点を絞った Web またはモバイル アプリケーションへと各自のワークフローを移行できます。

ユーザー タイプを使用すると、ユーザーは以下の機能にアクセスできます：

- **シンプルなデータ共有** - Web ベースのツールを使用して、データの検索やマップの印刷といった日常的なタスクで、デスクトップ ソフトウェアへの依存を減らすことができます。
- **焦点を絞ったアプリケーション** - フィールド データ収集や属性編集などの機能だけを必要とするユーザーにタスク固有のアプリを提供できます。
- **クロスプラットフォーム コラボレーション** - デスクトップ、Web、モバイルの各ワークフローを接続して、GIS ツールへのシームレスなアクセスをどこからでも実現できます。

### 4. 将来に対応できるスケーラブルなシステムを先取りする

移行を行うと、現在から将来にわたってお使いのシステムが進化し成長していく中で、ユーザーをサポートできるよう設計された最新の GIS テクノロジーを使って作業できるようになります：

- **定期的な更新** - ArcGIS Pro は、リリースのたびに新機能と拡張機能を受け取り、お使いのツールが業界の先端技術に適合し続けることができますようにします。
- **セキュリティ強化** - 定期的なパッチと更新によって、進化するサイバーセキュリティの脅威に対処することで保護された状態を維持します。
- **スケーラビリティ** - 少人数のチームを管理する場合も、大規模なエンタープライズを管理する場合も、ArcGIS はユーザーに合わせて成長し、あらゆる段階でユーザーをサポートするツールとリソースを提供できます。

## 5. 組織の目標に合わせて GIS を調整する

移行は、組織の GIS 戦略を幅広い優先事項に合わせて調整し、将来の成長を促進する機会です:

- **アクセスの拡大** - カスタマイズされたツールによって地理空間データをアクセス可能で実用的なものにすることで、意思決定者と GIS 以外のユーザーの能力を高めます。
- **効率向上** - GIS ワークフローを既存のビジネスプロセスに統合して、運用を効率化します。
- **より良い意思決定の支援** - 高度な解析および視覚化ツールを使用して知見を広げ、データを活用した意思決定を支援します。

### 今すぐ行動すべき理由

開発終了バージョン サポートの ArcMap はまもなくリタイアする予定であり、その時点で、テクニカルサポートは終了します。移行が遅れると、結果としてリスクとコストが増える可能性があります。サポートされていないソフトウェアは、セキュリティの脅威にさらされるようになり、組織的な変更への適応力が制限されます。今すぐ行動することで混乱を最小限に抑え、将来にわたって ArcGIS のフル機能を十分に活用できるように組織を位置付けることができます。

## 移行の計画: 成功するための準備

ユーザー タイプ ライセンス モデルを通じた ArcGIS Pro への移行を成功させるには、まず組織の現在の GIS 環境を総合的に理解します。時間をかけて現在の状態を評価し、組織の目標に合わせて GIS 機能を調整して、チームとシステムの準備を整えることで、スムーズな移行の土台作りをします。

### 1. 現在の状態を評価する

下記の質問を利用して、現在のユーザー、データ、ワークフロー、インフラストラクチャーを文書化します:

## ユーザーのニーズとスキル

- **どのような目的で GIS を使用しますか？** 組織における GIS の使用方法と GIS が支えている主要なビジネスの成果について検討します。
- **組織内の誰が GIS を使用し、どのような機能が必要とされていますか？** データを表示、編集、または解析する必要のあるユーザーの数を確認します。これは、ユーザー タイプの種類と数を決定するのに役立ちます。
- **ユーザーは、それぞれのロール、職務、GIS 経験に基づいて、どのようなトレーニングを必要としますか？** Web アプリの表示やダッシュボードの監視のみが必要なユーザーを調べます。これらのユーザーには ArcGIS Pro のパワー ユーザーとは異なるトレーニングが必要です。これらのユーザーのワークフローと専門技術に基づく、ユーザーが成功するように支援するにはどのようなサポートが必要になるのでしょうか。

## データ

- **どのようなデータ格納方法を使用していますか？** フォルダー、ファイル ジオデータベース、エンタープライズ ジオデータベース、ArcGIS Data Store、クラウド ストレージ、非構造化データウェアハウスなどの格納場所ごとにデータのインベントリーを作成します。[ArcGIS Pro でこれらの各場所へアクセスする方法について詳細をご確認ください。](#)
- **どのようなタイプのデータを使用しますか？** ベクター、ラスター、3D、タイル、リアルタイムデータなど、データ タイプのインベントリーを作成します。これは、新しい ArcGIS システムのすべてのデータ タイプに対応するために必要です。
- **いずれかのデータセットのアップグレードが必要ですか？** 組織が使用しているデータセットの内容を確認します。ArcGIS Pro で使用できるようになるまでに移行またはアップグレードする必要があるフィーチャクラス タイプ、データセット、データ形式、またはデータ モデルが複数存在するためです。これには次のようなものがあります：
  - カバレッジおよびパーソナル ジオデータベース (.mdb) - これらの古い形式はサポートされていないため、継続して使用するには、[ファイル ジオデータベース \(.gdb\) に変換する必要があります。](#)
  - モザイク データセット - ArcGIS Pro で正常に動作するように[アップグレードする必要があります。](#)
  - アノテーション - 標準のフィーチャリンク アノテーションに[変換する必要があります。](#)

- デイメンション - ArcGIS Pro 環境内で正常に動作するように[アップグレードする必要があります](#)があります。
  - ネットワーク データセット - ArcGIS Network Analyst™ エクステンションで動作するように[更新が必要](#)です。
  - パーセル ファブリック - [ArcGIS Parcel Fabric](#) にアップグレードする必要があります。
  - ジオメトリック ネットワーク - [トレース ネットワーク](#)または [ArcGIS Utility Network](#) に変換する必要があります。
- **マルチユーザー編集、オフライン編集、または履歴管理を利用していますか？** 現在の編集ワークフローと最適な編集ワークフローを確認します。ArcGIS Pro では、従来型のバージョンに加えて、サービスベースの編集用にブランチバージョンがサポートされています。バージョンを使用するかどうかだけでなく、適切なバージョンのタイプも決定する必要があります。[バージョンについて詳細をご確認ください](#)。
  - **ArcMap の属性アシスタントを使用していますか？** 組織が属性アシスタントを導入しているかどうかを確認します。属性アシスタントは ArcGIS Pro では使用できませんが、その機能は属性ルールとして利用可能です。[属性ルールについて詳細をご確認ください](#)。
  - **変換が必要な外部のデータ ソースまたはデータを使用していますか？** 組織全体にわたってその他のタイプのデータが存在しているかどうかを確認します。ArcGIS Pro はさまざまなデータ形式をサポートしています。AutoCAD などのツールを使えば、他のデータ形式との連携作業を効率化または簡素化できます。
  - **データを他のシステムと統合していますか？** データ統合プロセスを調べて、お使いのデータまたはデータ モデルに変更を加えるための計画を立てます。

## ワークフロー

- **個人またはチームは現在、どのような方法で ArcMap を使用していますか？ どのようなワークフローまたはプロセスを利用していますか？** 組織にとって重要なステップ、情報コンテンツ、成果を理解することを目指します。移行中は、これらのワークフローを ArcGIS Pro の同等の機能または拡張機能に対応付けることが不可欠です。場合によっては、データの収集、編集、表示のために、ArcMap ソフトウェアベースのワークフローを ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise Web アプリケーション/モバイル アプリケーションに移行することもできます。
- **どのようなカスタマイズを使用していますか？** カスタマイズされたツール、サーバー オブジェクトエクステンション、プラグイン、スクリプト、サードパーティー機能が利用されているか確認します。利用されている場合、商用オフザシェルフ (COTS) 機能への切り替え、COTS ソフトウェアの構成、またはローコード オプションの可能性について確認する必要があります。これら

のオプションに加えてカスタム ツールが必要な場合は、ArcGIS Pro SDK for .NET を使用してこれらの機能を再作成する計画を立てます。

- **ご利用のワークフローは ArcMap エクステンションに依存していますか？** ArcGIS Workflow Manager、ArcGIS Data Reviewer、ArcGIS Business Analyst™ などのエクステンションが使用されているかどうかを特定します。これらは ArcGIS Pro への移行で大きな変更を受けるためです。エクステンションを使用している場合は、移行計画において、これらのエクステンションの移行も検討する必要があります。
- **どのような方法で情報を共有していますか？** マップとデータを公開、共有、またはアクセス可能にする方法と、その対象が、他の組織や一般ユーザーであるかどうかを調べます。抽出、変換、読み込み (ETL) プロセスやレプリケーションを利用する場合は、データ形式またはモデルに対する変更に対応できるようにデータの取り込み方法や変換方法を文書化します。
- **どのような印刷版のマップ、レイアウト、マップ シリーズを使用していますか？** 組織の作業の移行を開始するには、ArcGIS Pro にこれらの **.mxd ドキュメントをインポート** します。データドリブン ページは自動的にマップ シリーズに変換されることに注意してください。
- **どのようなシンボルを使用していますか？** ArcGIS Pro で使用する ArcMap シンボルを特定します。ただし、特に Web ベースのワークフローとの互換性を高めるために、シンボルの最新化を検討します。リプレゼンテーションは ArcGIS Pro で使用されなくなりましたが、シンボルは再作成できることに注意してください。[ArcGIS Pro におけるリプレゼンテーションについて詳細をご確認ください。](#)
- **どのような Web マップを使用していますか？** 使用している Web マップまたはアプリケーションのインベントリを作成して、それらを ArcGIS Enterprise または ArcGIS Online に移行する計画を立てます。

## インフラストラクチャー

- **ArcGIS システムのどのような基本コンポーネントを使用していますか？** 現在の設定を確認します。これは、インフラストラクチャーの計画に役立ちます。Web サービスを現在使用しているか、今後使用する予定の場合は、ご利用の GIS が [ArcGIS Enterprise](#) または [ArcGIS Online](#) 環境に最適であるかどうかを検討します。次のコンポーネントを確認してください：
  - ArcMap
  - ArcMap エクステンション
  - ArcGIS Server
  - Portal for ArcGIS
  - ArcGIS Server または ArcGIS Enterprise エクステンション
  - エンタープライズ ジオデータベース
  - ArcGIS Online

## 2. 組織の目標に合わせて GIS を調整する

この移行は、組織の幅広い優先事項に合わせて GIS 戦略を調整する機会です。次の領域を中心に取り組みます：

- **ライセンスの最適化** - ユーザー ロールを Viewer、Creator、Professional Plus などの適切なユーザー タイプと対応付けることで、コストと機能を最適化します。
- **ワークフローの優先順位付け** - 最初に最新化する必要がある価値の高いワークフローを特定します。
- **コラボレーションの拡大** - ユーザー タイプを使用して、より広範なユーザーが GIS のデータ、ツール、知見にアクセスできるようにします。

対話型のユーザー タイプ移行決定木を利用して、チームのニーズとワークフローに適したライセンスを見つけます。

## 3. チームとシステムの準備を整える

チームと IT インフラストラクチャーが、移行の準備が完了していることを確認します：

- **システムの準備状況** - お使いの IT インフラストラクチャーが [ArcGIS Pro のシステム要件](#)を満たしていることを確認します。
- **データ管理** - データの整理とクリーニングを行うことで、シームレスな移行を確実にします。
- **トレーニングとサポート** - Esri Academy、Learn ArcGIS、インストラクター主導型コースなどのリソースを利用し、チームメンバーのロールに応じてカスタマイズされたトレーニングを提供します。詳細については、このガイドの最後にある「[補足的なリソース](#)」セクションをご参照ください。

## 4. 移行のタイムラインを策定する

移行をフェーズに分けて実施し、作業の中断を最小限に抑え、潜在的な課題に対処できるようにします：

- **予備テスト** - まず、少人数のグループで課題を特定し、ワークフローを調整します。
- **段階的ロールアウト** - すべてのユーザーとワークフローが含まれるまで移行を段階的に拡大します。
- **進捗の確認** - ユーザーからのフィードバックを収集し、必要に応じて調整を行います。

## 上記のステップが重要な理由

現在の状態を評価することで、進化し続ける GIS の利用を組織のニーズとワークフローに合わせて調整できるようになります。チームとシステムの準備ができると、ダウンタイムを最小限に抑えて、効率性を高め、将来の成功へと組織を位置付ける移行をすぐに実行できる状態になります。移行の計画についてサポートが必要な場合は、[Esri アカウント管理者とのチャット](#)をご利用ください。

# 移行の開始

計画が完了したら、ArcGIS Pro への移行を開始しましょう。次の各ステップに従って、チームはライセンスの設定、ソフトウェアのインストール、データの移行、チームのトレーニングを実行できます。

## ステップ 1: ライセンスの設定

### ライセンス モデルの理解

現在メンテナンス対象のすべての ArcMap ライセンスには次のものが含まれます:

- ArcGIS Online 組織アカウント (ユーザーとコンテンツの管理およびマップ、アプリ、ダッシュボードの共有を行うための中央ハブとして機能する)
- Creator ユーザー タイプ (ArcGIS Pro へのサイン インとアクセス管理に必要)
- ArcMap ライセンスの Basic、Standard、または Advanced レベルの ArcGIS Pro アドオン

デフォルトでは、[ArcGIS Pro ライセンスは ArcGIS Online 経由で割り当てられますが](#)、ArcGIS Enterprise をセルフホスト型 GIS 環境として使用している組織は、希望する場合は ArcGIS Enterprise でライセンスを管理できます。詳細については、『[ArcGIS Enterprise ライセンス ガイド](#)』をご参照ください。

**主なメリット:** このクラウドベースのライセンス モデルは従来のライセンス ファイルに代わるもので、インストール先のあらゆるコンピューターからユーザーが ArcGIS Pro にアクセスできる柔軟な作業環境を実現し、最新のワークフロー間のコラボレーション機能を強化します。

## ArcGIS Online の有効化

ArcGIS Online を使用する組織は、ArcGIS Pro ライセンスを割り当てる前に、組織のサブスクリプションを有効化する必要があります。『[ArcGIS Online 実装ガイド](#)』を参照し、下記のセクションの手順に従ってください:

- **サブスクリプションの有効化** (ページ 4)
- **メンバーの追加** (ページ 8)

組織が ArcGIS Enterprise を使用している場合は、[Portal for ArcGIS で ArcGIS Pro ライセンスを構成する方法を確認してください](#)。

## アクセスの提供

ライセンスの設定が完了したら、作業を行うためにこの強力なデスクトップ ソフトウェアを必要とするユーザーに ArcGIS Pro を割り当てることができます。現時点で、ArcGIS Pro アドオンは、ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise の Creator ユーザー タイプに割り当てます。ArcGIS Pro に完全に移行した後は、Creator、Professional、または Professional Plus [ユーザー タイプ](#)を通じてのみアクセスが可能になります。

モバイル デバイスでデータを収集したり、Web 上でデータを表示したりするメンバーなど、ArcGIS Pro が必要ないチーム メンバーは、**Viewer、Contributor、または Mobile Worker ユーザー タイプ**で見つかるアプリと機能に対応させることを検討してください。

## ヒント

- **ユーザーの管理:** 組織の個々のメンバーがコンテンツとサービスにアクセスして操作する方法を制御します。[ArcGIS Online](#) または [ArcGIS Enterprise](#) のユーザー タイプ、ロール、および権限の管理について詳細をご確認ください。
- **既存の Esri アカウントの使用:** チーム メンバーが Esri アカウントを持っている場合は、そのメンバーを組織に追加する際に、そのメンバーが選択したアカウントを使用して招待するオプションを選択します。ここで、2 つのアカウントをマージする必要はありません。アカウントのマージに関する質問は、[Esri カスタマー サービス](#)までお寄せください。
- **Esri アクセスの有効化設定の使用:** メンバーが Esri Training、Esri Support、Esri Community、My Esri などのサイトにアクセスできるようにする場合は、この設定を有効にする必要があります。[その方法をご覧ください](#)。

## ステップ 2: ArcGIS Pro のダウンロードとインストール

ArcGIS Pro を適正なチーム メンバーに割り当てたので、次はソフトウェアをインストールしましょう。ArcGIS Pro は、組織の管理者がダウンロードしてインストールできます。この担当者は、Esri カスタマー サービスとやり取りして、ソフトウェアの有効性を保持します。主な保守担当者が不明な場合や新しい担当者を指名したい場合は、Esri [カスタマー サービス](#)にお問い合わせください。自分がこの役割を担っていない場合は、このセクションの情報を該当する担当者に渡してください。

- **ArcGIS Pro のダウンロードとインストール:** [ArcGIS Pro ドキュメント](#)の手順に従います。セキュリティ上および管理上の理由で、組織のメンバーは ArcGIS Pro をダウンロードできません。管理者は、ダウンロードプロセスを管理できます。また、[各メンバーが独自のソフトウェアをダウンロードするのを許可](#)することもできます。
- **アクセスの確認:** ユーザーが、各自に割り当てられたユーザー タイプを使用して ArcGIS Pro にサインインできることを確認します。

### ヒント

- **システム要件の確認:** 仮想マシンまたは物理コンピューターで ArcGIS Pro のインストールまたはアップグレードを行う前に、お使いのシステムが、ArcGIS Pro を実行する最小システム要件を満たしていることを確認してください。[詳細をご確認ください](#)。
- **組織の接続:** ArcGIS Pro をダウンロードする前に、新しい ArcGIS Online 組織を My Esri に接続させておく必要があります。このためには、My Esri にサイン インして、組織タブをクリックし、メッセージに従って権限をリクエストします。  
**必要に応じて認証:** ArcGIS Online を使用してユーザー タイプがすでに割り当てられている場合、組織のメンバーは ArcGIS Pro の起動時にサイン インするだけで済みます。ArcGIS Pro アドオンをライセンス ファイルに変換した場合は、認証番号と詳細な手順が記載された電子メールが送信されています。この情報は、My Esri のライセンス領域でも確認できます。[ライセンス ファイルを使用した ArcGIS Pro の認証について詳細をご確認ください](#)。

## ステップ 3: マップ、データ、ツールの移行

ArcMap コンテンツを ArcGIS Pro に移動させるプロセスは簡単です。お気に入りのスタイルと Python スクリプトをインポートすることもできます。以下のワークフローが役立つとお考えの方は、ワークフローをチームメンバーと共有することをおすすめします。

### ArcMap ドキュメントのインポート

ArcGIS Pro では、作業内容をプロジェクトファイル (.aprx) に整理されます。プロジェクトは、共通の目的に使用される関連アイテム (マップ、レイアウト、アイテム接続、およびその他のリソースを含む) のコレクションです。マップ (.mxd)、シーン (.sxd)、およびグローブ (.3DD) 形式の既存の ArcMap ドキュメントがある場合、それらを ArcGIS Pro プロジェクトにインポートできます。関連ドキュメントが複数ある場合は、それらのドキュメントを単一の ArcGIS Pro プロジェクトにインポートして、ワークフローを効率化できます。

「[ArcMap ドキュメントのインポート](#)」チュートリアルを実行して、このプロセスの仕組みを確認してから、自分の .mxd のインポートを試してください。

**重要:** .mxd をインポートしても、元のファイルは変更されず、引き続き ArcMap で正常に動作します。ただし、ArcMap と ArcGIS Pro は同じデータソースを参照するため、必ず、「データの移行」セクションでベストプラクティスを確認してください。

### ArcGIS Pro への ArcMap スタイルの変換

- ArcMap スタイル (.style) を ArcGIS Pro スタイル (.stylx) に変換する必要があります。
- 多くの ArcMap スタイルは ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise で使用できます。
- または、[ローカルに保存したスタイルをインポート](#)することもできます。

[スタイルを検索および追加](#)する方法について詳細をご確認ください。

### カスタム ツールとスクリプトの更新

ArcGIS Pro では Python 3 が使用され、ArcMap では Python 2 が使用されます。このため、ArcMap 用に作成されたスクリプトとカスタム ジオプロセシング ツールを ArcGIS Pro で動作するように変更する必要があります。ただし、アドインなどの他のツールは ArcGIS Pro で書き換える必要があります。次のリソースを活用してください。

- [ArcGIS Pro で実行するツールの分析](#) - 変更を加える必要のあるコードの領域を特定する
- [Python 2to3](#) - スクリプトとカスタム ツールを変更するプロセスの多くを自動化できる
- [ArcGIS Pro SDK for .NET](#) - ArcGIS Pro 用の新しいアドインの作成に役立つ

[ArcGIS Pro 用のカスタム ジオプロセッシング ツールの分析](#)について詳細をご確認ください。

## データの移行

ArcMap で作業に使用するデータの大部分は、ArcGIS Pro でそのまま使用できます。.mxd をインポートする場合、ArcGIS Pro では、変更を必要とせずにデータとの接続が維持されますが、データセットの中には、ArcGIS Pro の機能を最大限に活用するためにアップグレードまたは変換が必要なものもあります。[データの移行と既存の作業の移行について詳細をご参照ください。](#)

## ヒント

**GIS 管理のベスト プラクティス:** ワークフロー、ユーザー、データの評価に加えて、GIS 管理者は、スムーズな移行を実現するにあたって重要な役割を果たします。以下に示すリソースは、一貫性のある設定の展開、アプリケーションの管理、チームのコラボレーションの最適化に役立ちます:

- **ユーザー間での標準の展開** - [アプリケーション設定の管理](#)を使用して、システム全体の設定を構成することで一貫性を確保します。
- **接続の移行** - [ArcGIS Desktop から ArcGIS Pro へのフォルダー、データベース、およびサーバー接続の移行](#)によって、重要なデータとツールへのアクセスを効率化します。
- **お気に入りの設定** - フォルダー、データベース、サーバー接続などのお気に入りを事前に構成しておきます。[プロジェクトのお気に入りの使用についての情報を含む Esri の Web ページ](#)を参照して、何が可能かをご確認ください。
- **組織のレイアウト テンプレートの配置** - 再利用可能なテンプレートを使用して一貫性のあるプロジェクトを作成します。[プロジェクトにレイアウトを追加](#)する方法について詳細をご確認ください。

# 補足的なリソース

厳選された学習リソースと継続的サポートをチームに提供します。

## トレーニング

### すべてのユーザー タイプ向けのフォーカストレーニング

- [無制限の E ラーニング](#): チュートリアルのカタログを見るか、体系的な学習計画に従って、自分のペースで主要な ArcGIS トピックを習得します。
- [Learn ArcGIS](#): 現実世界のシナリオをモデルとしたステップ バイ ステップのチュートリアルを利用して、基礎的なスキルを身に付けます。
- [インストラクター主導トレーニング](#): Esri の専門家によるクラスにアクセスできます。これらのクラスは対面またはオンラインで受講できます。

個人および組織全体を対象としたトレーニングの詳細については、[Esri Academy のオプションをご確認ください](#)。

### ArcMap から ArcGIS Pro へ移行するためのフォーカストレーニング

- [ArcGIS Pro の基礎](#) - 基本要素、基本ワークフロー、データなどを取り上げたこの学習計画をご確認ください。
- [ArcGIS Pro コース](#) - Esri Academy で提供するすべての ArcGIS Pro コンテンツをご参照ください。
- [ArcMap から ArcGIS Pro への移行](#) - この 2 日間のインストラクター主導型クラスについて詳細をご確認ください。
- [ArcMap から ArcGIS AllSource への移行](#) - この学習計画をご確認ください。

## 書籍

- [ArcMap から ArcGIS Pro への切り替え](#)
- [Getting to Know ArcGIS Pro 3.2](#)
- [Top 20 Essential Skills for ArcGIS Pro](#)
- [Top 20 Essential Skills for ArcGIS Online](#)
- [Getting to Know Web GIS](#)
- [Fieldwork Handbook: A Practical Guide on the Go](#)

## 参考資料

- 「[ArcGIS Pro: ArcMap からの移行](#)」(2024 年 Esri User Conference のテクニカル プレゼンテーション)のビデオをご覧ください。
- [ArcGIS Pro 用語ガイド](#)をご確認ください。
- ワークフローとヒントを取り上げた短い動画である [ArcGIS Pro Shorts](#) にアクセスできます。
- 製品の更新情報、エキスパートによるヒント、厳選されたリソースを通じて最新情報を入手できます。[ArcGIS Pro ニュースレター](#)にサインアップしたり、Xで [@ArcGIS Pro](#) をフォローしたり、[ArcGIS ブログ](#)を通じて ArcGIS Pro チームから直接、意見を聞くことができます。
- ビジネスの目標に合わせた GIS の調整を支援することで、GIS の効果を最大限に引き出す、全社規模の [GIS プログラム](#)の構築と運用について詳細をご確認ください。
- ArcGIS を使用して、組織のビジネス ニーズに合ったシステムを設計・構築・運用します。[ArcGIS Architecture Center](#)をご確認ください。

## トラブルシューティングとサポート

ArcGIS Pro のサポートをお探しですか？ 以下のリソースを利用して、答えを見つけてください：

- [ArcGIS Pro ヘルプ ドキュメント](#) - このリソースは、キーワードで検索可能であり、プログラム設定から個別のツールまで、すべてのドキュメントが格納されています。
- Esri Community - [Esri Community](#) に問い合わせると、同僚や Esri の ArcGIS Pro チームのメンバーから具体的な回答が得られます。
- ナレッジ ベース - Esri のサブジェクト マター エキスパート (主題専門家) によって検証されている [技術情報](#)を見つけることができます。
- FAQ - ArcGIS Pro ヘルプ ドキュメントで ArcMap に関する [よくあるご質問 \(FAQ\)](#) を参照して、一般的な問題の迅速な解決策をご確認ください。
- テクニカル サポート - 引き続きサポートが必要な場合、技術的な問題については [Esri テクニカル サポート](#)、ライセンスに関する質問については [Esri カスタマー サービス](#)にお問い合わせください。



Esri, the global market leader in geographic information system (GIS) software, location intelligence, and mapping, helps customers unlock the full potential of data to improve operational and business results.

Founded in 1969 in Redlands, California, USA, Esri software is deployed in more than 350,000 organizations globally and in over 200,000 institutions in the Americas, Asia and the Pacific, Europe, Africa, and the Middle East. Esri has partners and local distributors in over 100 countries on six continents, including Fortune 500 companies, government agencies, nonprofits, and universities. With its pioneering commitment to geospatial information technology, Esri engineers the most innovative solutions for digital transformation, the Internet of Things (IoT), and advanced analytics.

Visit us at [esri.com](http://esri.com).



### Contact Esri

380 New York Street  
Redlands, California 92373-8100 USA

1 800 447 9778  
T 909 793 2853  
F 909 793 5953  
[info@esri.com](mailto:info@esri.com)  
[esri.com](http://esri.com)

Offices worldwide  
[esri.com/locations](http://esri.com/locations)

詳細については、  
[esri.com](http://esri.com) をご覧ください。